

## 平成二十六年 未さん申さん達の田作り ～第八期大椎っ子田んぼ 稲刈り編～

予定していた10月1日は朝方から小雨が降り、10月8日に延期となりましたが、快晴のもと、大椎っ子田んぼも稲刈りを行ないました。あすみっ子同様、金谷さんから鎌や稲の葉先が危険なこと、田んぼの中には目には見えない微生物がたくさんいてお米の成長を助けてくれていたことなどのお話を聞いて、緊張した面持ちで田んぼにはだしで入り、稲を刈っていました。

自然観察では、秋の谷津田にふさわしく、いろいろな種類のアカトンボが飛んでいたため、赤シャツおやしこと、稲富さんからトンボの見分け方講座をしてもらいました。じっとしているトンボを観察したり、網や帽子でトンボ狩りをしては、「これはノシメトンボだ～」「アキアカネかな？ナツアカネかな？」と、トンボだけでなく、たくさんの昆虫博士が田んぼに出現していました。

子どもたちの原風景の中に今日の秋の谷津田での1日が残ってくれるといいなと思います。

☆わたしは初めて稲刈りをしました。稲はこしくらいまで大きいものもあり、成長したなと思いました。カマを初めて持ったので少しだけこわかったけど、どんだん来てきて少し早く刈れるようになったので、うれしかったし、たのしかったです。自然観察では、とんぼがたくさんいて、YPPの稲富さんが、「ミヤマアカネは体の部分が赤いのがおすで、黄色いのがめすだよ」と教えてくださいました。田んぼには大きいタニシがいました。アメリカセンダングサという草の花の部分が服にくっつくのがすごいなあと思いました。稲刈りした田んぼにはメダカもいっぱいいて、いい田んぼだと思いました。また、稲刈りをやりたいと思います。(S.S)

☆わたしは初めて稲刈りをしました。初めてカマを使いました。カマを横に引くと稲が刈れました。

自然観察ではアカトンボの種類がナツアカネ、アキアカネの他にも3種類いることがわかりました。アカトンボの見分け方は、大きさや羽のいろを見ることが大切だと教えてもらいました。また、ハシリグモは水の上を走ってえさをとり、巣を作らないくもだそうです。(Y.H)

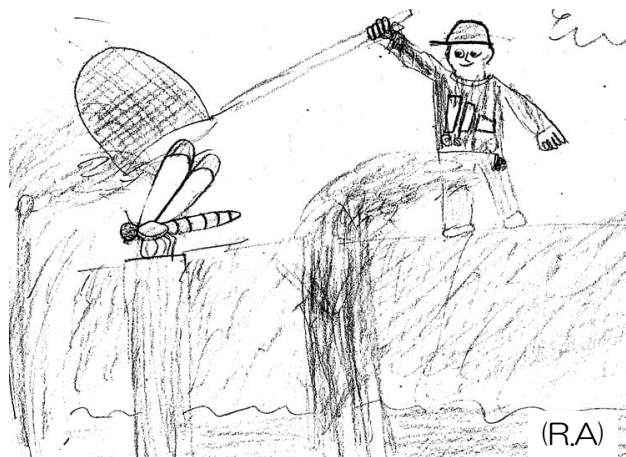
☆谷津田の田んぼの稲がとても大きくなっていましたので、びっくりしました。稲がとても太く切りにくかったです。自然観察では、いろいろな生物が見れました。マムシがいたのでびっくりしました。ほかにもオオカマキリのタマゴやヤゴなどが見れました。今日とれた米を食べるのが楽しみです。(Y.K)

☆私は、このあいだ田植えした稲の稲刈りと自然観察をしました。稲刈りは、かまを持ってとても危ない作業をしました。1人12束、刈りました。自然観察では、アキアカネ、ナツアカネ、マユタテアカネ、ミヤマアカネなどいろいろな種類がいました。とても楽しかったです。(M.K)

☆今日稲刈りをして一番大変だったのは、稲を刈る時のカマの引く方向です。稲がかたかったので、引く方向が手前やななめになってしまいました。自然観察では、たくさんのトンボがいました。トンボの種類や特ちょうを教えてください、もっとトンボのことが知りたくなりました。(M.S)

☆ぼくは、自然観察がおもしろかったです。トンボは2匹くらいつかまえました。ぼくがつかまえたトンボはノシメトンボでした。家に虫の図鑑があるので、トンボについて調べたいと思いました。ぼくは虫が好きなので、もっと虫にくわしくなりたいです。(R.A)

☆ぼくは田植えをして、いつも食べているお米がすごく手間や時間がかかって大変なんだということを知りました。なので、ごはんを食べる時には、1つぶ1つぶ大切にしていきたいと思いました。ぼくはこの経験を大事にしていきたいです。(I.K)



☆私は稲刈りや自然観察をしてとても楽しかったです。とくにカマで稲を刈るとき横に引くことや、稲がとても大きくたくましく育っていることや、アカトンボにも種類があることなどが心に残りました。また、カマのさきなツルツルではなくて、ノコギリのように小さいギザギザがあることがわかってとてもためになりました。育てたお米を食べるのがとても楽しみです。(H.T)



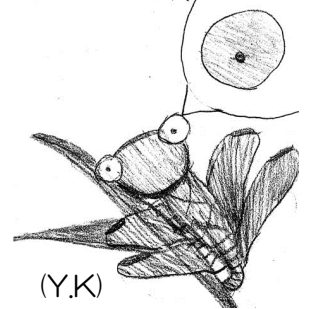
☆大椎っこ田んぼで稲刈りをしました。雑草もいっぱいありました。稲がとても大きくなって、お米がいっぱいついていました。私は稲の成長について調べたいです。

稲についてくわしく調べて、稲のことをもっと知りたいです。1歩田んぼに入る時に最低でも1万匹もびせいぶつがぎせいになるのは申しわけないですが、人間が食べていくためにはこうするしかないんだと思いました。

(A.K)

☆自然観察では、アカトンボについてびっくりしたことがあります。それはアカトンボだけでも、ナツアカネ、アキアカネ、マユタテアカネ、マイコアカネ、ミヤマアカネと5種類くらいあるそうことです。見分け方は、大きさや色、顔やはね、むねの線などでわかるそうです。稲刈りではカマについてくわしくなりました。また、米はなくてはならないものだということや、田んぼの中に1歩でも入ると1万匹の生き物が死んでしまうということがわかりました。(Y.K)

自然観察

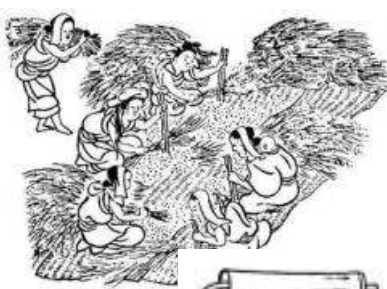


☆ぼくは、自然観察でトンボやチョウの種類をおしえてもらったり、空中をとんでいる虫をつかまえたりしました。トンボを見分けるためのポイントがあります。まず、秋のトンボは、おなかがふくらんでいたらいい、メスだそうです。つぎに羽の先を見て種類を見分けることができます。(Y.A)

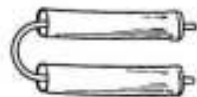
☆自然観察でとんぼやそのほかの虫がたくさんたことが心に残っています。トンボの種類を羽のもようで見分けられるトンボもいました。ヤゴやタニシなどを見つけることはできなかったけど、生き物がたくさん見られておもしろかったです。稲刈りは、久しぶりに田んぼに入ったので、水が冷たく感じました。たくさんお米がとれたのでうれしかったです。(T.K)

## 谷津田の農具図鑑④ 脱穀機

刈った稲をオダにかけるなどして乾燥させると、次は稲の穂からモミを外す作業、脱穀(だっこく、“稲こき”とも呼ばれる)をします。その昔は竹の“こき箸(こきはし)”で穂をはさんで脱穀していて、とても時間がかかる作業でした。江戸時代になると“千歯こき”と呼ばれる鉄のクシ歯の農具が発明されました。モミが付いたまま穂が落ちてしまうことも多く、棹(さお)でたたいてモミを外していました。その後、明治時代の終わりに“足踏み脱穀機”と呼ばれる画期的な農具が誕生しました。V字型の針金をたくさん付けた直径が50センチくらいの円筒(“こき胴”)が踏み板を踏むと高速で回転するしくみで、そこに稲束を当てるとモミが簡単に外れます。脱穀の効率は飛躍的に向上しましたが、稲のくすがモミに混じってしまうので、脱穀のあと、唐箕(とうみ、別の機会に詳しくご紹介します)を使って風を当ててゴミを飛ばす作業が必要でした。その後、動力によってこき胴を回し、同時に風を送ってワラくずを飛ばすことができるようになり、さらに車を付けた自走式の“ハーベスタ”に進化して田んぼで容易に脱穀ができるようになりました。昭和40年代になると稲刈りから脱穀までを一気にできるコンバインが誕生し、現代のスタイルになりました。YPPの活動では下大和田でハーベスタ、小山では足踏み脱穀機を使って毎年脱穀をしています。



こき箸



千歯こき

足踏み脱穀機



ハーベスタ



# 里山たんけんレポート

## 第 177 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2014年10月5日(日) 雨

大型の台風が近づき大降りの雨の中の観察会になりました。水路の水嵩も増し少し雨が強く降れば溢れそうな状態でした。特に高速道路のトンネルの道からの水は激しくU字溝へ流れ込んでおり、マンホールの蓋が外れかねないと思われました。雨の中でしたが、ミソソバはいたるところで満開、サラシナショウマも一番の見ごろを迎えていました。カントウヨメナ、アキノウナギツカミ、イヌタデなどが目を楽しませてくれました。林縁ではアケビやガマズミがきれいに色づいていました。生き物はほとんど姿を見せませんでした。アオサギ、ダイサギが私たちの姿を見てたんぼから飛び立ちました。また、アキアカネがずぶ濡れになりながらじっととまっていたり、左後翅が取れてないノシメトンボが枝にとまっているなど厳しさの中に生きている姿をみました。その他はオオカマキリ、ヒダリマキマイマイ、ミスジマイマイ、ジョロウグモ、ナガコガネグモ、コガタコガネグモが見られた程度でした。一巡後たんぼに戻りましたが畔はあちこちで水に浸かり、緑米田と中川の水位もほとんど同じになっていました。草を刈って通れるようになった中川沿いに上流部も巡りました。水に浸かった景観は最も谷津田らしい雰囲気です。これこそ谷津田という感じがしました。

(参加者 大人3名; 報告: 網代春男)

## 第 167 回下大和田 YPP「古代米の稲刈り」(第 10 回米づくり講座)

2014年10月25日(土) 晴れ

9月13日のコシヒカリの稲刈りに続いて、成熟の遅い緑米・赤米の稲刈りを行いました。

12月の収穫祭で餅つきをするもち米が緑米です。稲刈りが初めての方もベテランともども泥深い田に足を取られながらも、ひたむきに刈って午前中には大半を刈り終えました。コシヒカリ田に比べて雑草が少なかったのが刈りやすかったとの皆さんの感想でした。来年は畔の草刈りの時にも田の中の草取りを併せて行いたいと思います。

こども達には田の水たまりに残されたメダカを小川に放してもらいました。甲羅が20cm位のクサガメやアズマヒキガエルがたんぼから出てきて遊び相手をしてくれました。緑米田にはアヤネズミの巣もありました。

(参加者 大人21名、こども7名 報告 網代春男)



(写真: 田中正彦)

## 第 113 回小山町 YPP「コシヒカリの稲刈り」

2014年10月13日(月・祝) 雨

先月に続いて雨。小山のYPPはどうも天気に恵まれないようです。しかも今回は台風が近づいてきているためのしっかりとした雨でした。

まだコシヒカリの稲刈りが残っていて枯れた稲が折れているところもあり、早く刈らないと大変です。少し刈り始めたのですが、雨脚が激しくなってきたし、刈ってもオダに掛けた稲が台風の風で飛ばされることも心配なので、稲刈りは止めて、雑草を刈りました。この季節、ミソソバが稲を圧倒するすごい勢いで伸びています。小さな紅白の花はきれいなのですが、たんぼの中でここまで元気に花畑を作られると困りもの。しかもツルのように地面を這って稲株の間に伸びています。その分、根元を切って引っ張るとスルスルっと大きなミソソバのかたまりを取ることができるのですが、畦際に山のように生えていたミソソバを刈ったらとてもすっきりしました。

(参加者 大人3名、報告 高山邦明)



10月12日の里山くらぶで立派なサルノコシカケが採れました。5月から6月にかけて明るい茶褐色の粉を周辺に散らすので「コフキサルノコシカケ」と呼ばれる種類です。倒壊した大木に生えて枯れ木の養分がなくなるまで成長を続けるということです。生長しても横方向の大きさは変わらないのですが、年々厚みを増します。

(網代春男)

## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 10月11日 セミの音がしない。マユタテアカネがオスメスつながって田んぼで産卵（高山）。  
10月13日 雨の中、林の中から弱々しい声のシュレーゲルアオガエルの合唱が聞こえてきた（高山）。  
10月19日 シュレーゲルアオガエルのゆったりした寝ぼけたような鳴き声が出た（高山）。  
10月25日 ジョウビタキがさえずり、アシ原からアオジの地鳴きが聞こえる。田んぼにオオアオイトトンボがつながって飛んできた。斜面林の縁でヤクシソウが黄色い花を咲かせていた（高山）。

### 下大和田

- 10月12日 里山くらぶの日 トビナナフシ、クロメンガタスズメの大きな幼虫が出現した（網代）。  
10月17日 里山くらぶの日 シロヨメナが満開。アブラゼミがまだ鳴いていた。ニホンマイマイが出現、モズが高鳴き、ダイサギがYPP 田に飛んできた（網代）。  
10月24日 アオジ初鳴きが聞けた。モズが張り合って高鳴きを交わしていた。枯れたコナラにウスヒラタケ（食用キノコ）がたくさん出ていた（網代）。  
10月25日 古代米稲刈りの日 モズが落鳥していました。縄張り争いに敗れたのか、猛禽に襲われたのか？田んぼにクサガメ、アズマヒキガエルが出現した。斜面林ではツクツクボウシの鳴き声が出ている（網代）。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPP のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/）

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

## ▼下大和田 YPP 第 168 回「緑米・赤米の脱穀」(兼第 12 回米づくり講座) 第 169 回「モミすり」(兼第 13 回米づくり講座)

今年最後の田んぼでの作業、緑米の脱穀をします。稲の乾燥具合や天気によって日程が変わる可能性がありますので、当日や前日の天気が悪い場合はご注意ください（このホームページで前日にはお知らせします）。そして、今年収穫したお米のモミすりをします。モミすりは田んぼから離れた場所で行いますので、参加をご希望の方は事前にちば環境情報センターまで電話ないしはメールにてお知らせください。

日時： 脱穀 2013年11月8日（土）10～14時 ☆天候次第で変更の可能性あり  
モミすり 2013年11月15日（土）10～14時 ☆雨天でも実施

場所： 脱穀 千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。  
また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45（JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:25、8:40など> 料金は520円）

持ち物： 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物など。  
参加費： ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料  
主催： ちば環境情報センター 共催： ちば・谷津田フォーラム

## ▼第 179 回 下大和田 12 月の谷津田観察会とごみ拾い

冬鳥が勢ぞろいする頃です。木々の紅葉と冬鳥との再会を楽しみながら初冬の谷津を巡ります。

日時： 2014年12月7日（日）9時45分～12時 ☆小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田（同上）

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45（下大和田 YPP に同じ）

持ち物： 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費： 100円（小学生以上、資料代など）

主催： ちば・谷津田フォーラム 共催： ちば環境情報センター

## ▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時：2014年11月9日（日）、11月14日（金）いずれも9時45分～15時

場所：千葉市緑区下大和田谷津田（同上） 持ち物：飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催：ちば環境情報センター

## ▼第 114 回 小山町 YPP「緑米の稲刈り」

残っている最後の稲、緑米を刈ります。晩秋の谷津の自然を楽しみながらの作業です。

日時： 2014年11月22日（土）10:00～12:30、小雨決行

場所： 千葉市緑区小山町 リンドウ広場（ご連絡いただければ地図をお送りします）

持ち物： 飲み物、長靴（田んぼが深いので長めがいい）、帽子、軍手、敷物。

参加費： 100円（小学生以上、資料代など）

主催： ちば環境情報センター

編集後記 今年もあとカレンダーが2枚になりました。谷津にはジョウビタキやアオジなど冬鳥たちがやってきています。田んぼには冬眠場所を求めて、ニホンアカガエルが集まり始めました。もうすぐそこまでやって来ている冬を前に下大和田でも小山でも今年の米づくりが大詰めに迎えていますので、みなさんのお力添えをよろしくお願ひします。  
(高山 邦明)